

# 川で観察

## Point1 川に入る

P. 22では、川を下流と中流、上流の大きく3つに分けて説明しましたが、川のように場所によって大きく異なっていて、そこにすむ生きものにも違いがみられました。川の観察のポイントも、その違いを考えながらみてみましょう。

淀川や大和川など大きな川の下流は、水量が多く、また危険も伴うこと<sup>ともな</sup>から、川に入らないほうが無難<sup>ぶなん</sup>です。

実際に川に入って観察できるのは、川の中流から上流です。そのあたりの川では、流れの蛇行<sup>だこう</sup>や大きな石などの障害物<sup>しょうがいぶつ</sup>によって、水の流れの速い場所<sup>せ</sup>（瀬とよびます）と、水が淀む場所<sup>よど</sup>（淵とよびます）<sup>ふち</sup>が交互<sup>こうご</sup>にあらわれています。

淵<sup>ふち</sup>は水深が深く、川底には砂や小さな石が多くなります。一方、瀬は浅くて、川底には大きな石が多くなり、砂などはあまりみられなくなります。瀬で流された砂が、流れの遅い淵<sup>ふち</sup>で底にたまり、このような形状になったのです。



149. 川の上流

まずは、橋の上などからこのような川の様子を観察し、実際に川に入って川底の状態などを確かめてみましょう。

淵<sup>ふち</sup>は急に深くなっていることがあります。十分に注意して観察しましょう。